

*Crown English Communication I*, pp. 82–83.

## Lesson 6

### Roots & Shoots

Jane Goodall is <sup>(1)</sup>famous for her work with chimpanzees.  
Here, Kenji interviews her about her life and work.

—1

Kenji: Dr. Goodall, thank you so much for taking time for this interview. I know that you spent many years studying chimpanzees in Africa. When did you first <sup>(2)</sup>decide to go to Africa?

Jane: It was after I had read the Doctor Dolittle and the Tarzan books. When I was 11, I knew that somehow I would go to Africa to live with animals, study them, and write books about them.

Kenji: I'm sure there are <sup>(3)</sup>lots of young people who want to work with animals someday. How can they prepare themselves?

Jane: There are a lot of things you can do in order to understand animals. It is very important that you watch them and observe their behavior. It is also important that you write <sup>(4)</sup>notes and ask questions. If you are really determined, you will find a way.

## Lesson 6—Lead

(1) famous 形 1, p. 688.

**fa·mous** /féiməs/ [→fame]

形 (more ~; most ~) 1 〈人・物が〉(多くの場所で多くの人々に)《…で/…として》(よい意味で) **有名な**, 著名な, 名高い *for/as* ▶ world famous figures 世界的な著名人たち / the rich and famous 富と名声のある人たち (集合的に; 複数扱い) / be famous as a rival to Ichiro イチローの好敵手として有名である。

語法のポイント 奈良は古い寺が多いことで有名だ。

- × It is famous that Nara has many old temples.
- Nara is famous for its many old temples.
- It is well-known that Nara has many old temples.

語法のポイント 当所は釈迦(いす)の生誕地として知られている。

- × This place is famous for the birthplace of Buddha.
- This place is famous as the birthplace of Buddha.

1 for ... を用いるのは ... が主語に属しているものの場合。この例のように This place = the birthplace の関係が成り立つ場合は as。

類義 famous と well-known, prominent など famous は「有名な」の意味の最も一般的な語。well-known は特にある場所がよく知られていることをいう。prominent は《ややかたく・主に書》で、他より卓越しておりよく知られていること。celebrated は《書》で、芸術家・作品などが認知され注目されて有名なことで、皆からの敬愛・名誉を暗示する。distinguished は《主に書》で、専門家などがその職業で成功し尊敬・称賛を集めていること。eminent は《主に書》で、専門家・芸術家などがその分野で頂点にあると認識され、有名で尊敬されていること。notorious と infamous は悪いことで有名なことをいうが、後者は《かたく》で、不道德・邪悪さを強調し、より強意的。

- ・ コミュニケーション活動において大切な基本語として、共に用いる前置詞を押さえておきたい。二重山形かっこ《 》で囲まれた箇所を探し、「《…で/…として》有名な」という場合、それぞれ *for/as* を用いることをチェックし、教科書本文(for を使用)や辞書の第3用例(as を使用)で確認させる。
- ・ 語法のポイントには for や as を伴う表現の用法や、類義語の well-known では that 節が使えることなどが記されているので触れておきたい。
- ・ 語義 1 では( )中に(多くの場所で多くの人々に)(よい意味で)と、「有名な」という訳語に対する補足説明があるので、ここに注意を促す。さらに、類義には他の類義語との違いが出ているので、まとめて教えると効果的。

## Lesson 6—Section 1

(2) decide 動他 1a, pp. 487–88.

**de·cide** /disáid/ [de (分離) cide (切る)]

((名) decision, (形) decisive, (副) decidedly)

動 (～s /-d/; ～d /-id/; deciding) (→分詞) decided, deciding)

1 a [decide to do] 〈人が〉…することに決める, …しようと決定[決意, 決心]する ▶ We have decided to go on a picnic next Sunday. 私たちは次の日曜日にピクニックに行くことに決めた / Why did you decide not to talk to the press about the incident? なぜあなたはその出来事についてマスコミに話さないことに決めたのですか (1 not の位置に注意; →not 3 語法 (1)) / It was decided to keep it secret. それは秘密にしておくことが決まっていた。

b [decide (that) 節] …ということを決定[決意, 決心]する ▶ I decided (that) I would try again. もう一度やってみようと決意した / It was decided (that) the old building ((主に英) should) be pulled down. その古いビルの取り壊しが決定した (1 should の省略については →suggest 語法; →it 4 e)。

c [decide wh 節・句] …かを決める ▶ You have to decide now whether you really want to study medicine. あなたは本当に医学を勉強したいのかどうか今決めなければならない。

- ・ [decide to do] の文型表示から、to 不定詞を伴う動詞であることを確認させる。辞書の第1用例と教科書本文とがよく似ているので比較させる。
- ・ 第2用例は not を用いた否定を表しているが、not の位置がどこになるのかに注意させる。
- ・ 1b, 1c には that 節や wh 節が後続する形が出ているので触れておくといよい。

(3) lot<sup>2</sup> 図 成句 a lot of A, p. 1147.

*a lot of A* = 《くだけて》 *lots of A*・たくさんA (人・物・事); Aの多数[大部分] (1) 通例文の中で強勢を受ける; 実際の発音をまねて *a lot of* は *a lotta*, *lots of* は *lotsa* と表記されることがある。(2) Aは 名詞複数形または 名詞; ↓  
**語法** (2); → many, much) ▶ *There are a lot [lots] of people who are out of work.* 仕事を失っている人が多い/*make a lot [lots] of money* 大金を稼ぐ/*a lot [lots] of times* 何度も, しばしば; 普通は, たいていは/What *a lot of toys you have!* ずいぶんたくさんおもちゃを持っているね。

**語法** (1) 文の種類 *a lot [lots] of* は肯定文で用いられることが最も多いが, 疑問文や否定文でも用いられる ▶ *So did you get a lot of presents yesterday?* それで昨日はたくさん贈り物もらったのかい (特に肯定的な答えを期待する場合に好まれる)/*I didn't have a lot of friends.* 私は友達は多くはなかった (↓ (5)).  
 (2) 単数・複数 Aが 名詞複数形の場合は複数扱い, 名詞の場合は単数扱いとなる ▶ *A lot of things have changed.* 多くのことが変わった/*A lot of time was wasted.* たくさんの時間がむだになった。  
 (3) 文体 *a lot [lots] of* は一般にくだけた言い方で, かたい文脈では, 名詞複数形が続く場合は *many*, *a large [great] number of* などが, 名詞が続く場合は *much*, *a great deal [amount] of* (→ *amount* 図 1 語法) などが好まれる。  
 (4) 修飾語 ↑ 図 2 コーパスの窓 (2).  
 (5) 意味の強さ *many* < *a lot of* < *lots of* の順でより多くの数を表す傾向がある。 *lots of* はさらに強調されて, (*lots and*) *lots and lots of* という形もある。否定の場合も, *not ... many ...* は「ほとんど[あまり]...ない (few)」ことを表すが, *not ... a lot [lots] of ...* は「少しはある[いる]が多くはない (some but not many)」ことを表す。

- lot は同綴りで語源が違う語があるので, lot<sup>1</sup>, lot<sup>2</sup> と右上の小さな数字で区別されていることを教えたい。「たくさん」という意味はわかっていると思われるので, そこから lot<sup>2</sup> を参照させる。
- 成句 見出しの「*a lot of A* = 《くだけて》 *lots of A*」という記述に注目させ, この 2 つは同じ意味であり, *lots of A* の方がくだけた表現であることを確認させる。語法 (3) にはより詳しい文体についての情報があるので注意。lesson 6 は対話になっているので, lot が数多く登場することに気付かせる。
- A にどんな形の名詞がくるか調べさせる。  
 図 2 の注記の (2) にある「A は 名詞複数形または 名詞」という説明に注目させる。教科書本文の 12 行目は集合名詞 (*people*), 15 行目は *a lot of* を使った可算名詞複数形 (*things*), 次ページ 1 行目には不可算名詞 (*fieldwork*) が使われているのでチェックさせる。語法 (2) では, 主語になった場合の単数扱い・複数扱いの情報が得られるので, 参照させることもできる。
- 第 1 用例は教科書本文と同じ句が太字になっており, 頻出フレーズとして確認させる。

(4) note 図 1b, p. 1308.

**note** /nout/ [語源は「印」]  
 ((形) *notable*, *noted*, (副) *notably*)  
 ④ ~s /-ts/ 1 覚え書き, 走り書き, メモ ▶  
*make a note of A's address* Aの住所をメモする/*make a mental note* to call my mother 母に電話することを覚えておく/*scribble a note on (the) paper* 紙に走り書きする。  
 b [通例 ~s] (文面上の) 記録, ノート(の記述内容), 原稿; 手記 (帳面をさす場合は *notebook*) ▶ *take [make] notes of [[米] on, about] the lecture* 講義をノートに取る/*keep detailed research notes* 詳細な研究記録を付け続ける/*speak without notes* 原稿なしで話す。

- 「通例 ~s」という用法指示から, 普通は複数形で用いられ, 「記録, ノート(の記述内容)」などの意味になることを確認させる。
- 「帳面・文具としてのノート」は, 図 2 にあるように *notebook* であることに注意。
- 共に用いる動詞としては, 教科書本文の *write* のほかに *take*, *make* もあること, 「...(について)の記録」という場合に, 後続する前置詞には *of*, *on*, *about* をとることを, 辞書の第 1 用例でチェックさせる。

*Crown English Communication I*, p. 84.

—2

Kenji: You did a lot of fieldwork, observing chimpanzees in the wild. Are they in any way <sup>(1)</sup>like human beings?

Jane: Chimpanzees and humans have a lot in <sup>(2)</sup>common. We know today that the DNA of humans and chimps differs by just a little over one percent. Their brains are very much like ours and much of their behavior is like ours. Like us, they also have much to learn in their <sup>(3)</sup>childhood. The members of a chimp family are very close, often helping one another. They can feel sad, happy, afraid, and angry.

## Lesson 6—Section 2

(1) like<sup>2</sup> 例 1a, pp. 1116–17.

**like** <sup>2</sup> /laɪk/ ((名) likelihood, likeness, (形・副) likely, (副) likewise)

原義は「似ている」(↓例 2)だが、ほぼ同時期に「…のような」(↓例 1)のような用法も現れた。《くだけで》では as if (…であるかのように; ↓例 1)と同様に用いられたり、《くだけた話・非標準》では会話の間合いをとるつなぎ言葉(↓例 1)として用いられることがある。

— 例 1a [[類似]] (外見・音・特徴などの点で) …のような、…に似ている (↔ unlike) (連語) (1) look, feel, be, sound, seem. (2) a bit, very, quite) ▶ She looks just like [× as] her aunt. 彼女は叔母さんにうり二つだ/They are very (much) like each other. 彼らはよく似ている/I felt a bit like a millionaire. ちょっぴり大金持ちになった気分だった/That sounds like his car outside now. (あの音からすると)彼の車が外にきているようだ/We are more like a family than just workmates. 我々は単なる仕事仲間というより家族みたいなものだ/I never expected it. (It's) like a dream come true. 思ってもみませんでした、夢がかなったかのように/a man with eyes like a cat's [[くだけで] a cat, 《かたく》 those of a cat] 猫のような目をした男/I'm like you. (意見を聞かれて)君と同じだよ[同じ意見だ].

語法 慣用的に new, crazy, mad など 例 を従えることがある ▶ I've used this car for two years, but it still looks like new. この車を2年ほど使っているけどまだ新品同様だ。

- like には like<sup>1</sup> と like<sup>2</sup> があり、語源が異なる同綴異義語(右上に小さい数字を付けて表示)であることに注意させる。教科書本文では be 動詞と共に使われているので、前置詞である like<sup>2</sup> の方を参照させる。
- 語義 1a に 連語 というロゴに続いて、共に用いられることの多い動詞が挙げられているのでチェックさせ、教科書本文と同じ be 動詞があることを確かめさせる。辞書の第2用例が同じく be 動詞を用いた例になっているので参照させ、ここでは「彼らは何らかの点で人間に似ているか」という意味になることを確認させる。
- like<sup>2</sup> を用いた表現が、教科書の同じページに数か所登場するので確認させる(2行目, 7行目, 8行目には2箇所)。辞書の第2用例は very (much) like …が使われており、教科書7行目の表現と同じであることをチェックさせる。8行目2箇所目の like us は 1a ではなく、1c になることにも注意させる。

c [[様態]] (行動・方法・状況などの点で) …と同様に ▶ I, like you, think it's terrible. 君と同じく私もそれはひどいと思う/Like everyone else, I dream about winning the lottery. はかのみんなと同じように、宝くじを当てる夢を見る。

(2) common 例 成句 have A in common, p. 383.

have A in common\* 〈人・物などが〉《人・物などと》共通のA〈事〉をもつ 《with》 (1) Aは a lot, something, nothing など ▶ Susan and Mary have little in common. ≡ Susan has little in common with Mary. スーザンとメリーに共通点はほとんどない。

- 名詞の重要成句として赤いアステリスク(\*)が付いているので注意させる。
- 成句 の A の部分によく現れる語が 2 の注記に記されているので、教科書本文の a lot も含まれていることをチェックさせる。
- 「《…と》共通の A をもつ」という場合は、二重山形かっこ《 》で示されているように《with》を用いることに触れると、表現力アップにつながる。

(3) childhood 例, p. 329.

**child·hood** <sup>\*</sup> /tʃaɪldhʊd/ [→child]

— 例 (例 1) 子供[幼年]時代, 幼少期 (1) 具体例では a ~ / ~s; その際しばしば修飾語を伴う (↔ adulthood; → infancy, youth) ▶ I spent my childhood in London. 僕は子供の時、ロンドンで過ごした/have a happy [normal] childhood 楽しい[人並みの]子供時代を過ごす/ from [since] childhood 幼少から/in my childhood 《かたく》私が子供のころ (≡ 《よりくだけで》 when I was a child)/childhood dreams [memories] 子供時代の夢[思い出].

- 第4用例が教科書本文と同じ in + 所有格 + childhood になっているので意味を確認させる。
- 辞書の用例訳の前に《かたく》という使用域表示があるのを確かめさせる。さらに続いて、≡ の後に言い換え表現も示されているのでチェックさせる。言い換え表現には《よりくだけで》という使用域表示があることにも注意させたい。

*Crown English Communication I*, p. 85.

Kenji: What about their character—I <sup>(1)</sup>mean, are they friendly? Are they cruel?

Jane: They are usually <sup>(2)</sup>friendly with each other, but they can be cruel, just like humans.

Kenji: Really?

Jane: The males patrol their territories, sometimes attacking chimps from another community. But they can be very kind and loving too. Once, when he was about three years old, a chimp called Mel <sup>(3)</sup>lost his mother and was left alone. We all thought he'd die. But, to our surprise, a 12-year-old male chimp called Spindle took care of him.

Kenji: In what <sup>(4)</sup>way?

Jane: He let Mel ride on his back and share his nest at night. I often saw him <sup>(5)</sup>sharing his food if Mel asked for it. Chimpanzees can indeed be loving and caring.



(1) mean<sup>1</sup> 動④ 成句 I mean, p. 1194.

**I méan**・『明確化・訂正』《話》(前言を補足説明したり言い間違いを訂正して)つまり; いやその、いやそうじゃなくて (発話の真意を導入することがあるが、話し手によっては意味なく会話の最中に繰り返す人もいる; →really 《会話のシグナル》) ▶The food was terrible—I mean it wasn't even hot! 食事はひどかった—いや、つまり温められてもいなかったんだ/He's American—Canadian, I mean. 彼はアメリカ人、いやその、カナダ人だ。

**語法** (1) 言葉を探して思索中であることや、ためらいを表す場合は、しばしば well と共に用いる。you know と共に用いて、自分の真意や訂正した内容などを相手が理解しているかを確認したり、理解を求めたりする ▶I don't really like him .... Well, I mean, he's kind of ... unfriendly, you know. 彼のことはあまり好きじゃないんだ…。えっと、だから、あの人がここ…親しみにくいよ、わかるでしょ。  
(2) 前言なしで自分の意見を述べる場合には I mean は用いない ▶“What do you think he should do?” “I think [×mean] he should resign.” 「彼はどうすべきだと思いますか」「辞任すべきです」。

- mean は語源が異なる同綴異義語があることに注意させて、mean<sup>1</sup>, mean<sup>2</sup>, mean<sup>3</sup>のうち、教科書本文では主語に続いて使われていることから動詞用法のある mean<sup>1</sup> の成句を参照させる。紙の辞書なら開いた状態でこの3つすべてを目視できるので、それぞれの主要な意味を押さえることも簡単にできることを教えたい。
- コミュニケーションで欠かせない句として用法をしっかりと把握させる。『明確化・訂正』という意味概念の表示や、二重丸かっこの《話》という使用域表示、さらには( )による訳語の補足説明から、会話中にことばが足りないと感じたり、訂正したいと思った場合に用いることを理解させる。教科書本文のインタビューアが、質問の意味を明確にしたいという意図をもって用いていることを読み取らせたい。
- 語法** にはより詳しい解説があるので、チェックできると効果的。

(2) friendly 形 3, p. 768.

**friendly** /frén(d)li/ [→friend]

— 形 (-lier; -liest/more ~; most ~) 1 〈表情・声などが親しみのある、優しい; 友情のこもった; 〈場所が〉くつろげる ▶a friendly face [smile] 親しみのある顔[人なつこい笑み]/a friendly atmosphere [welcome] なごやかな雰囲気[心のこもった歓迎]/some friendly advice 友人としての忠告。  
2 〈人・動物などが〉《人などに》親切な、愛想のよい、人なつこい《to, towards》(kind<sup>1</sup> は個人の性質に、friendly は相手との関係に重点がある); 〈人・事が〉《…に》賛成する、好意的な《to, towards》▶Clare is very friendly to us. クレアは僕らに対してすごく親切だ/in a friendly way [manner] 好意的に、友好的に。  
3 『通例 be ~』〈人が〉《人と》仲がよい《with》▶be [become] friendly with A A 〈人〉と親しくしている[なる] (前者は ≈ be on friendly terms with A)。

- 形 という品詞表記のすぐ後ろに、比較級・最上級の形が出ているので確認させる。他の語と違い、friendly は -er/-est 型と more ~ /most ~ 型の両方が使われることに注目させる。
- 『通例 be ~』という用法指示と、一緒に用いる前置詞句などを示す二重山形かっこ « » を使った《with》という連語表記から 3 に導く。

(3) lose 動⑥ 6, p. 1145.

6「…で」〈親族・友人〉をなくす「to」; …に死なれる; 〈命〉を落とす; 〈やや古〉〈健康〉を損ねる (1)lose は避けて damage [ruin] one's health を使うのが普通) ▶I lost my mother to cancer. 私は母親を癌でなくした。/Many people lost their lives [Many lives were lost] on that mountain. あの山で多くの人命が失われた。

- 「…を失う」という lose の基本的な意味を押さえた上で、目的語の違いによって生じる意味の差異を理解させたい。目的語の名詞には典型的にどのようなものがあるかという「選択制限」が山形かっこ ( ) の中に示されていることに注目させ、1a の〈貴重な物など〉を失う、2 の「〈物〉をうっかり紛失する」、3a の「〈人・方向など〉を見失う」などと違い、教科書本文は 6 の「〈親族・友人〉をなくす; …に死なれる」の意味であることを確認させる。辞書の第 1 用例は目的語が教科書本文と同じ mother なので参照させるとよい。

— ⑥ 1a 〈貴重な物・人・金・権利など〉を失う、なくす (→ gain) ▶lose one's job 失業する/lose everything to gambling 賭け事ですべてを失う/lose one's power 〈人などが〉権力を失う; 〈物・事〉効力がなくなる。

2 (うっかりして) 〈物〉をなくす、紛失する (→ find) ▶I lost my door keys. ドアの鍵をなくした。

3a 〈人〉〈人・方向など〉を見失う; 〈道〉に迷う; 〈場所〉がわからなくなる (→ lost) ▶lose my son in the crowd 人ごみの中で息子を見失う/lose one's way 道に迷う/lose one's place in a book 本のどこを読んでいたのかわからなくなる。

(4) way 図 1, pp. 2126–27.

— 図 (⑥ ~s /-z/) 1 ㉑ [a way to do/of doing] …する方法、やり方; [(in) a ... way] …なふうに (1 限定詞や 図を伴って副詞的に; → some 図 1 文法) ▶There are many ways to relax. リラックスするにはいろんなやり方がある/We have to find a way to end the strike. ストを終らせる方法を見つけないといけない/I have [There's] no way of knowing that. それを知るすべがない/E-mail is a way of communicating [×communication]. Eメールはコミュニケーションの一手段である (1 「…の方法、手段」という場合、a way of の後には通例 ⑥名を用い、図を用いない; a means of communication とすることは可)/see things in a different way 物事を違った目で見ると (≠ see things differently) (1 way は複数形も可能: The accident has affected different people in different ways. その事故はいろんな形でさまざまな人々に影響を与えている)/In what way is your new album different from your debut album? 新しいアルバムはあなたのデビューアルバムとどう違うのですか/Sometimes he speaks in a way that hurts her. ととき彼は彼女を傷つけるような言い方をする/Do it my way or get out! おれの言う通りにやれ、でなきゃ出て行け/(In) this way he became famous. こうして彼は有名になった (1 in はしばしば省略され、《話》では特にその傾向が強い)/in one way or another あれこれ手を尽くして。

- 1 には [(in) a ... way] という文型表示の後に、「…なふうに」という訳語が出ているが、教科書本文では way を修飾する語が疑問詞になっていることに注意させる。辞書の第 6 用例が同じ in what way で始まる疑問文になっているので注目し、これが「どういうふうに」という how と同じ意味になることを確認させる。
- さらに第 6 用例を参照させ、教科書本文の In what way? の後ろには何が省略されているかを考えさせるのもよい (In what way (did Spindle take care of Mel)?)。

(5) share<sup>1</sup> 動⑥ 2, p. 1723.

2 〈人〉の間で 〈物〉を分配する、均等に分ける (out) «among, between»; «人に» 〈自分の物〉を分けてやる、使わせる «with» ▶share (out) one's food among [between] one's friends 食べ物を友人たちに分配する (1 この意味では 3 人以上でも between を用いることができる)/share one's wine with a friend 友人にブドウ酒を分けてやる。

- 若い Mel が Spindle におねだりをした (asked for it [=his food]) 時の Spindle の行動について語っているので、教科書本文の share は 2 の「〈自分のもの〉を分けてやる」にあたることを確認させる。教科書本文には出ていないが、「人に」のように分ける相手をさす場合には «with» を用いることにも触れておきたい。
- 教科書 p. 89 の最後の行で、インタビューーのお礼の中に「Dr. Goodall, thank you ... for sharing your ideas with us.」という表現がある。3 の「人と」〈意見など〉を分かち合う; «人に» 〈意見など〉を話す «with» の例となっているので、先に辞書で用法を確認させておくのも効果的。

3 «人と» 〈悲喜・行動・意見・特徴など〉を共にする、分かち合う «with»; 〈義務・損失など〉を共同負担する; «人に» 〈意見など〉を話す «with» (1 通例進行形にしない) ▶share an interest in philosophy 哲学への興味を共有する/They all share the responsibility for the mess-up. 彼らは皆その混乱の責任がある/Please share the secret with us. その秘密を私たちに話してください。



*Crown English Communication I*, p. 86.

### —3

Kenji: Now let's turn to the topic of the environment. You travel all over the world, giving <sup>(1)</sup>talks about the conservation of nature. Do you have any comment?

Jane: Yes, we humans must understand that wild animals have the <sup>(2)</sup>right to live. They need wild places. Besides, for our own good, there are some kinds of living things that we must not destroy. Many drugs for human diseases come from plants and insects. When we destroy a wild area, maybe we are destroying the <sup>(3)</sup>cure for cancer and other diseases without knowing it.

Kenji: I <sup>(4)</sup>see.

Jane: Everything in nature is connected. Plants and animals make up a whole pattern of life. If we destroy that pattern, all kinds of things can go wrong.

Kenji: Could you say more about that?

## Lesson 6—Section 3

## (1) talk 図 3, p. 1925.

3 図 «…に関する» 演説, 講義, 講演 «about, on» (1 図 speech と違ってくだけた雰囲気での小規模なもの) ▶give [×do, ×make] a talk on linguistics 言語学に関する講義をする。

- ・「世界中を旅してまわる」という文脈から、3 の「演説, 講義, 講演」に導く。3 には共に用いる前置詞を表す二重山形かっこ« »で、「«…に関する»演説」という場合には«about, on»を用いると記されているので注目させる。about の方がよく使われるので太字になっていることを教えたい。教科書本文も about を用いていることをチェックさせる。
- ・第 1 用例の「講義をする」という表現で、give a talk とはいうが×do a talk や×make a talk とはしないことを×印を付けて示していることを確認させる。教科書本文も give とのコロケーションとなっている。名詞と基本動詞を組み合わせた名詞構文で「…をする」と表現する場合、名詞と動詞には決まったコロケーションがあるので注意させておきたい。

## (2) right 図 1a, p. 1618.

1 図 (㊦ ~s /-ts/) 1 図 a [通例 a/the ~] «…する/事に対する» 権利 «to do/to, of» (1 図 of doing を従えるのは《まれ》) ▶We have [reserve] the right to choose [be here]. 我々には選ぶ[ここに]権利がある/have no right to do …する権利がない; 《比喩的に》…するのはおかしい/The law gives you the right to cancel. その法律で解約の権利が与えられている/have a right to [of] education [privacy] 教育を受ける[プライバシーを保護される]権利がある (×have right … としない)/You have every right to be angry [upset]. 君が怒る[取り乱す]のも無理はない。

- ・教科書本文が the right となっていることから名詞の項目を参照させる。1a には[通例 a/the ~]という用法指示があり、教科書本文の the right に合っていることから、「権利」という意味であることを確認させる。
- ・「«…する»権利」という場合は «todo» を用いることが、二重山形かっこ« »で示されているのでそこに注目させ、教科書本文が「生きる権利」を表していることを理解させる。
- ・「権利がある」という場合、教科書本文のように動詞は have を用いることを辞書の用例から発見させる(第 1, 2, 4, 5 用例)。

## (3) cure 図 1, p. 463.

1 図 (㊦ ~s /-z/) 1 図 «病気などの» 治療; 治療薬[法] «for»; 治癒, 回復 ▶very effective cures for cancer 癌に大変有効な治療法/take the cure 《米・やや古》療養する; 道楽をやめる。

- ・cure for cancer and other diseases と続いていることから、1 の「治療」の意味になることを確認する。
- ・「«…の»治療」という場合、«for»を用いることが二重山形かっこ« »で示されているので注意させる。教科書本文は「がんやその他の病気の治療」という意味だが、「…の～」という場合には、どのような場合でも図+of を使って表現できるものではなく、この cure の場合に for 句を取るように、名詞によって後続する前置詞に違いがあるので注意を促したい。

(4) see<sup>1</sup> 図 成句 I see, p. 1694.

I see. «話」なるほど, わかった, そうですか (1 図相手の説明を理解していることを伝える; しばしば Oh, I ~で; ↑㊦ 2).

- ・会話でよく使われる句であることを、二重丸かっこの《話》という使用域表示や、1 図の注記を見させて確認させる。
- ・1 図の注記に記されている「↑㊦ 2」という表示は、「㊦ 2 を参照すること」という意味を示していることを教えたい。p. 1693 の㊦ 2 には I see. と同様に《話》という使用域の表示があり、「わかる, 理解する」という意味が出ているのをチェックさせ、I see. がなぜ「なるほど」という意味になるかを納得させる。コミュニケーションにある第 1 会話例を確認させるとよい。

2 《話》〈人〉が わかる, 理解する (1 図進行形にしない) ▶as far as I can see 私の理解できる限りでは/Do you see (what I mean)? (私の言おうとしていることが)わかりますか。

## コミュニケーション

A: You have to press the return key.

リターンキーを押します。

B: Oh, I see. はいわかりました。

X: What's going on? どうなってるの。

Y: You'll see. そのうちわかるよ。

*Crown English Communication I*, p. 87.

Jane: Sure. One time in England, rabbits were destroying farmers' grain. The farmers killed the rabbits by <sup>(1)</sup>giving them a disease. Then foxes didn't have enough to eat and they started killing the farmers' chickens. The farmers then killed the foxes, and rats quickly <sup>(2)</sup>increased in number and destroyed just as much grain as the rabbits had eaten. We humans are in <sup>(3)</sup>danger of destroying our environment and ourselves <sup>(4)</sup>along with it.

(1) give 動④ 14, p. 812.

**14** [give A B/B to A] A<人>にB<病気>をうつす, 伝染させる (infect) ▶Don't give me your cold. かぜをうつさないでくれよ.

- give には多くの意味があるので, ①SVOO 構文であること, ②disease (病気)を目的語に取ること, の2つをヒントに意味を探させる。④14 には[[give A B/B to A]]というSVOO もしくはSVO to O を取るという文型表示がある。また, A, B がどのような目的語になるかという「選択制限」が山形かっこ〈 〉に入れて示されているが, それを見ると, 「A<人>にB<病気>をうつす, 伝染させる」とあるので, この④14 が教科書本文の内容と一致することを確認させる。
- 用例に日常会話に役立ちそうな表現が出ているので, 参照させるとよい。

(2) increase 動⑤, p. 988.

**in·crease** <sup>1</sup> /ɪnkrɪs/ (1-se は /s/; 動と図で強勢が異なるので注意)

[in (上に) crease (成長する)] (副) increasingly

— 動 (〜s /-ɪz/; 〜d /-t/; increasing)

— ⑤ 〈物・人などが〉「…の点で/…だけ/…から/…まで」増える, 増加[増大]する «in/by/from/to» (↔decrease) ▶His artworks are likely to increase in value. ≒The value of his artworks is likely to increase. 彼の芸術作品は価値が上がりそうだ/Traffic volume has increased by 20 percent in the past ten years. 過去10年間で交通量が20%増えた/The number of people over the age of 65 increased to nearly 23 million in 2001. 65歳を超える人口が2001年にはほぼ2,300万人にまで増えた。

**語法のポイント** 中国語を学ぶ人が増えている。

× People who are learning Chinese are increasing.

○ The number of people who are learning Chinese is increasing.

**1** 英語で increase するのは人ではなく数量を表す語 (number, population など)。

- 見出し語のすぐ横に発音記号があるが, そこに**1**の注記で①-se の発音は/s/であること, ②動詞と名詞で強勢位置が違うこと, が記されているので確認させる。
- 自動詞用法で用いられる前置詞が, 二重山形かっこ« »で示されているのでチェックさせる。スラッシュ(/)で区切られた「…の点で/…だけ/…から/…まで」はそれぞれ in/ by/from/to に対応していることを教えたい。教科書本文は in が使われているので, 「数が[=数の点で]増える」という意味になることを理解させる。
- 辞書の第1用例が in を使っているので, 教科書本文と比較させる。

(3) danger 名④成句 be in danger of A, p. 474.

**be in danger of A** Aの危険[恐れ]がある ▶This bird is in danger of becoming extinct. この鳥は絶滅する恐れがある。

- 意味が「Aの危険がある」になることを踏まえ, 例文に注目させたい。教科書本文 (destroying …)と同様に辞書の用例でも動名詞句(becoming …)が使われており, また教科書下部欄外「26. be in danger of 〜」に挙げられた例文も losing … と動名詞になっていることから, Aは動名詞句になることがよくあると確認させる。

(4) along 副④成句 along with A, p. 62.

**along with A**・A<人・物>に加えて, Aと一緒に; A<人>と連れだって (**1** TOGETHER with Aの方が強意的; →with **1**) ▶I'll go along with you. ご一緒します/send a letter along with the gift 贈り物に手紙を添えて送る。

- 重要成句として赤いアステリスク(\*)が付いているので注意させる。Aには〈人・物〉のいずれもくることがあるので, 例文で確認させる(第1用例は人, 第2用例は物)。



*Crown English Communication I*, p. 88

—4

Kenji: So are you <sup>(1)</sup>worried about our future?

Jane: Yes, I am. But my hope lies in young people. Once they know about environmental problems, they want to solve them. That's why I decided to start Roots & Shoots.

Kenji: What's that?

Jane: Well, it <sup>(2)</sup>began with a group of high school students in Tanzania in 1991. It is called Roots & Shoots, because roots can <sup>(3)</sup>work their way through rocks to reach water. And shoots, <sup>(4)</sup>though they are tiny, can break through a wall to reach the sunlight. The rocks and wall are the problems humans have caused to our earth.

Kenji: So it's a kind of club for young people?

Jane: That's right. We now have groups all over the world and each group chooses three projects: one to help people, one to help animals, one to help the environment. The world is a better place when you cause a sad person to smile, when you make a dog wag its tail, or when you give water to a thirsty

## Lesson 6—Section 4

(1) worried ㊦, pp. 2190–91.

**wor·ried\*** /wəˈriːd|wáɪr-/  
[→worry]

— ㊦ (more ~; most ~) 〔通例 be ~〕〈人が〉不安で; 〈人・事について/…ということ/…かを〉心配して《about, over/(that) 節/wh 節》, 《事で》不安に思っ《by》; ㊦の前で〕不安そうな、困った〈表情〉(→worry 類義) ▶She looks very worried. 彼女はとても不安そうな顔をしている/be worried about the future 将来のことが心配だ/I am worried that she isn't coming back. 彼女は戻って来ないのじゃないかと心配している(=I worry that...)(→worry 動⑤)/I got worried that maybe something had happened to him. ひょっとして彼に何かあったのではないかと心配になった (I get worried が「(即座に)心配になる」ことをいうのに対して、worry は「(ある程度の長期間にわたって)心配に思っている」状態を表すのでここでは I worried that... は《不自然》)/be worried sick [to death] ひどく〔死ぬほど〕心配している/with a worried look on one's face 顔に不安な表情を浮かべて。

語法 about, over, by などの ㊦ や that 節, wh 節を伴う be worried は形容詞化していると考えられ、以下のような副詞(句)と共に用いることが可能 ▶very, really, a bit, a little, increasingly, just, extremely, deeply, slightly, particularly.

- worried は worry から派生した語であることが[→worry]という語源欄の記述からわかるので、確認させる。紙の辞書だと worried を引くと隣のページに worry が出ているので、すぐにどのような語かを知ることができる。
- 〔通例 be ~〕という用法指示から、叙述用法が普通であることを確認させる。さらに、山形かっこ〈 〉に囲って「〈人が〉不安で」と選択制限が記されているので、主語が人になることにも注意させる。
- worried に後続する形が二重山形かっこ「」で示されているので、チェックさせる。スラッシュ(/)で区切られた「人・事について/…ということ/…かを」はそれぞれ「about/(that)節/wh 節」に対応していることを理解させる。特に頻度の高い about は太字で示されているが、教科書本文でも about が使われていることを確認させたい。
- 語法 には worried と共に使う前置詞、節や強意の副詞(句)などの情報もあり、チェックできるとよい。

(2) begin ㊦成句 begin with A, p. 174.

**begin with A** (1)〈出来事が〉A〈物・事・人〉から始まる (I 進行形にしない) ▶It all began with a fight in a pub. すべての始まりはパブでのけんかだった。(2)〈話・言葉などが〉A〈事・文字など〉で始まる (I 進行形にしない) ▶Almost all letters begin with the word “Dear.” たいていの手紙は「拝啓」で始まる。(3)〈人が〉A〈物・事・人〉から始める、手を付ける ▶Let's begin with your background. まずあなたの経歴からお聞きしましょう/We began with the kitchen and cleaned the whole house. 台所を手始めに家中を掃除了。

- 「…から始まる」という表現では数種類の前置詞が使用されるので、注意しておきたい。まず begin with A の(1)の意味を確認させ、「…から始まる」となっているが from を使わないことをチェックさせる。用例にも言及して、「何かが A をきっかけに始まる」という場合には with を用いることを理解させる。
- ㊦1 にも「…から始まる」という意味があるが、この場合は二重山形かっこ「」で「at, in」を用いると記されている。第1用例の at は「ある時間から始まる」ことを表しており、用例訳に続いて、from を使わないことが(×)を使って示されているのに注目させる。また、第2用例には in (最初の方)、第5用例には at が使われているが、これは「始まる場所」をさしていることをチェックさせる。第2用例のふたつ目の in は、「1980年代後半から」となり、こちらは第1用例のように「始まる時」を示している。「…から」という日本語から from を連想しがちだが、成句として with、時や場所を表す前置詞として at や in などが用いられることに注意を促す。

— ㊦1 〔begin + ㊦〕〈行事・出来事などが〉始まる; 《…から》発生する (《より話》start) 《at, in》(↔end) (I ㊦は時間の表現; ↓ 成句) begin with A ▶Classes begin at 8 a.m. 授業開始は午前8時です (×Classes begin from 8 a.m. としない)/The fashion began in Tokyo in the late 1980s. そのファッションは1980年代後半に東京から広まった/The election campaign has begun in earnest. 選挙戦がいよいよ本番に入った/The search will soon begin again. 捜査はまもなく再開される/Charity begins at home. 慈愛は家庭〔身近なところ〕から始まる。

(3) work 働⑤ 5, p. 2186.

5 [～ one's way] 徐々に[努力して]「…に」(ゆっくり)進む  
«into, to, up to, through» ▶He joined the company in 1970 and has *worked his way* to the top. 彼は1970年に入社して、ついにトップに上りつめた/The undercover cop *worked his way into* the gang. その私服刑事はどうか暴力団にもぐりこんだ/work one's way forward into the room 苦勞しながら前進して部屋の中に入る。

- 教科書本文が work their way through rocks と目的語があることから他動詞であることがわかる。さらに、5には[～ one's way]という略式文型表示があるので、これを手掛かりに「徐々に進む」の意味に導く。ただ進むのではなく、「徐々に進む、努力して進む」という意味合いが、「(根が)岩の間をゆっくりと伸びる」という教科書本文の内容と合致することを確認させる。
- 「«…に»徐々に進む」という場合に用いる前置詞が二重山形かっこ« »で記されており、教科書本文で使用されている through も挙げられているのでチェックさせる。
- なお、動詞+one's way の形をとる様々な表現が、way<sup>1</sup> 成句 make one's way の表現コラムに挙げてあるので、これを参照させるのもよい(p. 2129)。

make one's way (1) 進む、前進する、進出する (1 方向・経路を表す 副 を伴う) ▶They made their way to the street. 彼らは通りの方へ向かった。

表現 動+one's way

make のほかにもどのように「進む」かを表した 動 を用いる表現が多く見られる: 通例移動に困難さを伴う ▶pick one's way (道を選んで)用心深く進む/elbow one's way 肘でかき分けて進む/find one's way ↑ 成句 /fight one's way (敵と)戦いながら進む/feel one's way ↑ 成句 /thread one's way (人ごみを)縫うように進む。

(4) though 接 1, p. 1972.

though /ðəʊ/ (u-ough は /ou/)

— 図 [[従位接続詞] 1 譲歩] (主節の内容からすると予想外の内容を述べて)「…にもかかわらず、…だけれども(《よりかた》)although」(1) 従属節を従えて。(2) 逆接の詳細は → but (読解のポイント) ▶Jim failed the exam, though [although] he made an effort. ジムは努力したが、試験に失敗した(≡Despite [In spite of] his effort, Jim failed the exam. ≡With all [For all] his effort, Jim ...; → for ALL...) (1 主節が表す予期せぬ結果への驚きを表す; ↓ 語法 (1), (2), (3))/Though (she was) no longer a future queen, Diana remained very popular. もう将来の王妃ではなかったが、ダイアナは依然としてすごい人気だった (1 主節でさらに重要な内容を導入; ↓ 語法 (2)(a), (3))/“So you're going to buy a private jet?” “I'll buy one, though it may not be now.” 「それでは自家用ジェット機をお買いになるつもりなんですね」「今すぐというのではないかもしれませんが買おうと思います」(1 主節に関連する消極的情報を添えてかえって主節の内容を強調)/Though other players have strength, Emily has speed. ほかの選手は力があるが、エミリーにはスピードがある (1 主節の内容との対照)/Though I say it [so] myself, I'm good at making paper airplanes. 自分で言うのも何ですが、紙飛行機を作るのはうまいのですよ (1 後に続く主節の内容を和らげる)。

- though も although も「譲歩」を表すが、(《よりかた》)although」という記述から、使用される場面に差があることに注意させる。
- though と although の違いは語法にも出ているが、かなり細かいので適宜必要な部分に触れるとよい。教科書本文では語順が複雑なので、(2)(b)にあるように、思いついた時に情報を言い添える場合、文中に挿入されることに注意させる。用例と比較することで理解を深めさせる。

語法 (1) 3-バツ though と although

(a) though は多くの場合 although と交換可能である。though は《話》より《書》で用いられることが多いものの、その差は although ほどではない。強意のため even though とすることがあるが、×even although の形はない(→even though)。図 1 第1例は《よりくだけで》では Jim made an effort, but he failed the exam. と言い換え可能(→but)。

(b) 従属節が先行し、そこで事実を確認する内容が述べられる場合には although が好まれる ▶Although Ward is known to only a few, his reputation among them is outstanding. ほんの少数の人にしか知られていないとはいえ、その中のワードの評判は群を抜いている。

(2) 語順 (a) 一般に、「主節+従属節(though 節)」は「従属節+主節」の語順(第1例の場合 Though [Although] he made an effort, Jim failed the exam.)をとることもあるが、although ではどちらの語順も同じくらい用いられるのに対して、though では前者が圧倒的。前者では「努力したのに」(従属節)、後者では「試験に失敗した」(主節)のように文末に置かれた部分に意味上の重点がある。

(b) 思いつきで情報を追加する場合、従属節はしばしば文中に挿入される。このような場合には though の方が好まれる(↓ 図 2) ▶Jim, though he made an effort, failed the exam. ジムは、まあ努力はしたんだけど、試験に失敗した。

*Crown English Communication I*, p. 89.

plant. That's <sup>(1)</sup>what Roots & Shoots is all about.

Kenji: Some final words?

Jane: The most important difference between humans and chimpanzees is that we can speak and share ideas. Every one of you has a role to play and you can make a <sup>(2)</sup>difference. You are just one person, but what you do <sup>(3)</sup>affects the whole world. And you have a choice: What to buy? What to eat? What to wear? The changes you make may be small, but if a thousand, then a million, finally a billion people all make those changes, this is going to make a big change.

Kenji: Dr. Goodall, thank you very much for your time and for sharing your ideas with us.



(1) what 成句 **That's what A is all about.**, p. 2144.

**That's what A is all about.** \* 《話》それがAにとってはすべて[重要]なのです。結局Aとはそういうことなのです (I that の代わりに具体的な語が入る場合もある) ▶ I love her and that's what it's [marriage is] all about. 彼女を僕は愛している。つまり大事なのは[結婚とは]そういうことだ。

- ・ 成句を調べて文型と意味を押さえ、教科書本文では Roots & Shoots が A にあたることを理解させる。
- ・ 辞書用例を参照させて、I love her という文が that's what ... の前にあることを確かめさせて、that は前にあるこの文をさしていることを理解させる。教科書本文では That が彼女の発言の前半の内容である、

それぞれのグループが人、動物、そして自然環境を支援する 3 つのプロジェクトを選んで行っていることや、(具体的には例えば) 悲しむ人を笑わせたり、イヌのしっぽをふらせたり、渴いている植物に水をあげると、世界はもっとよい場所になること

という箇所をさしており、こうした活動が Roots & Shoots のすべてなのだと述べていることを理解させる。

(2) difference 名 成句 **make a difference**, pp. 522–53.

**make a difference** \* «…にとって/…において/…の間で» 重要である; 影響する; 違いを生じる; [[否定文で] 重要でない; 影響しない; 違いを生じない «to/in/between» (I difference には a のほかに通例程度を表す 図などを伴う) ▶ A good teacher makes all the difference. 優れた先生というものは大変に重要である/It makes no difference where you are from. あなたがどこ出身であるかは関係ない[重要でない] (I it は where 以下をさす形式主語; → it 4 文法)/ Studying abroad has made [a lot of [a great deal of] difference to me. 留学は私に非常に大きな意味をもたらしている/for all the difference it makes ほとんど違いがないことを考慮に入れて。

- ・ 意味を調べさせるだけではなく、I の注記にあるように、difference の前にくるのが a だけではないことに注目させる。教科書本文は成句見出し通りの形だが、辞書の第 1, 第 4 用例は all the difference, 第 2 用例は no difference, 第 3 用例は a lot of, a great deal of と difference の程度を表す表現を伴っていることを確認させる

(3) affect<sup>1</sup> 動 他 1, p. 36.

**af·fect**<sup>1</sup> \* /əfekt/ [語源は「攻撃する」]  
((名) affection, (形) affectionate)

— 動 (～s /-ts/; ～ed /-id/; ～ing)

— ① 1 〈物・事が〉…に影響する, 変化をもたらす (I コーパス 人のふるまいや考え方に間接的に働きかける influence と違い、直接的に生活・仕事・結果などに変化をもたらすこと) ▶ The sales of alcohol are affected by tax changes. 酒類の売り上げは税制の変化により影響を被る/How has fame affected your life? 有名になったことであなたの生活はどう変わりましたか/be adversely [severely] affected 悪[深刻な]影響を受ける/Our house was badly affected by the fire that had started next door. わが家は隣りから出火した火事で大被害を被った。

- ・ I の注記にあるように、「直接的に変化をもたらす」という意味合いを確認させ、教科書本文の「あなたの行い(what you do)が直接、世界全体(the whole world)を変えるのだ」というメッセージを理解させる。